

令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告

保健体育課

1 調査の目的

- 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が各児童生徒の体力や生活習慣、食習慣、運動習慣を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

※この調査は平成20年度より開始。

(H23は東日本大震災、R2は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため未実施)

2 調査の概要

(1) 調査対象者

- ① 小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部の5年生全員（13,970名）
- ② 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校及び特別支援学校中学部の2年生全員（12,725名）

(2) 調査内容

① 実技に関する調査

ア小学校8種目（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ）

イ中学校8種目（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走又は20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ）

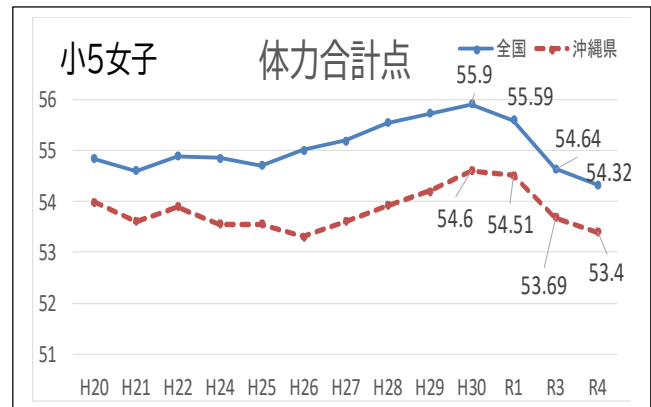
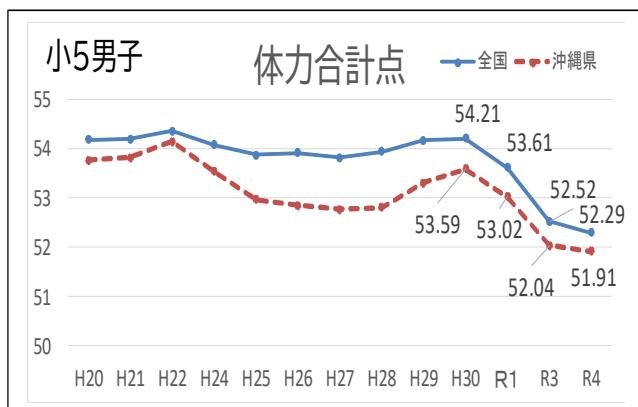
※20mシャトルランか持久走どちらかを選択

② 質問紙調査（運動習慣、生活習慣等）

3 令和4年度沖縄県の小学5年生の結果

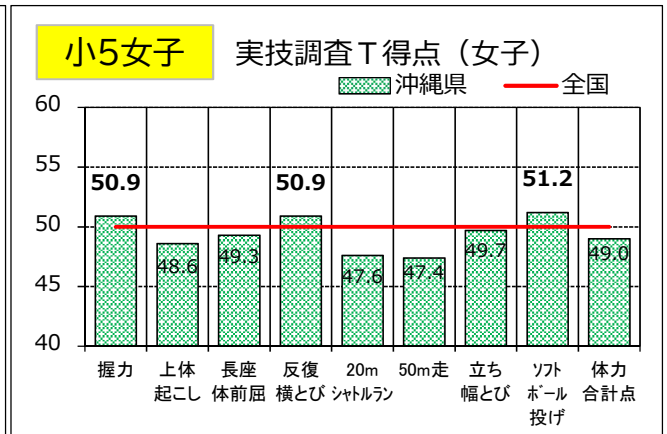
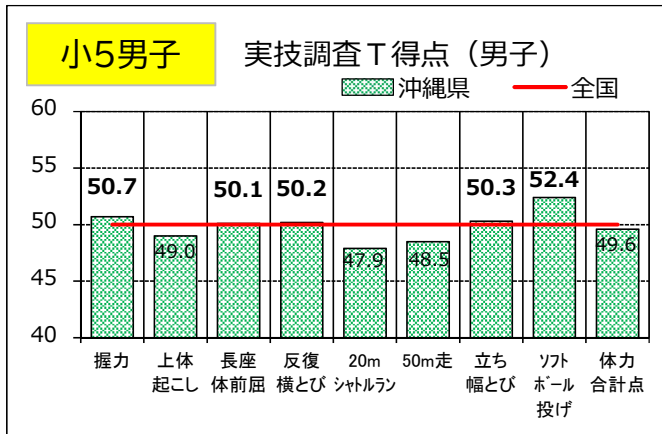
(1) 新体力テストの体力合計点（8種目）

小学5年生の体力合計点（8種目）は、平成22年度から令和3年度までの経年変化からみると、男子は平成28年度、女子は平成26年頃を境に上昇に転じているが、令和元年度からは下降に転じている。令和4年度は男女ともに全国平均には及ばないがその差は縮まっている。



(2) 新体力テスト種目別のT得点（全国50点）

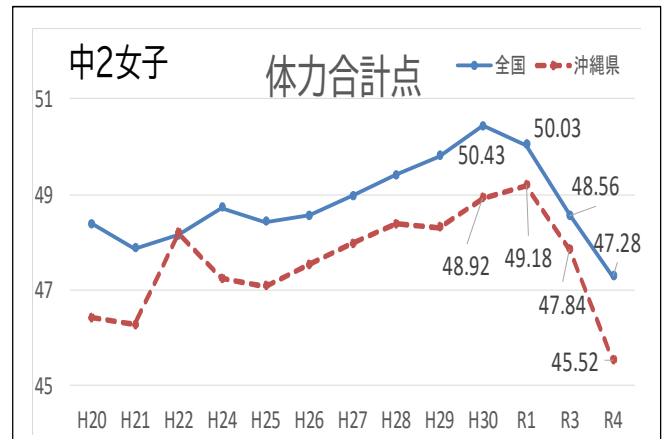
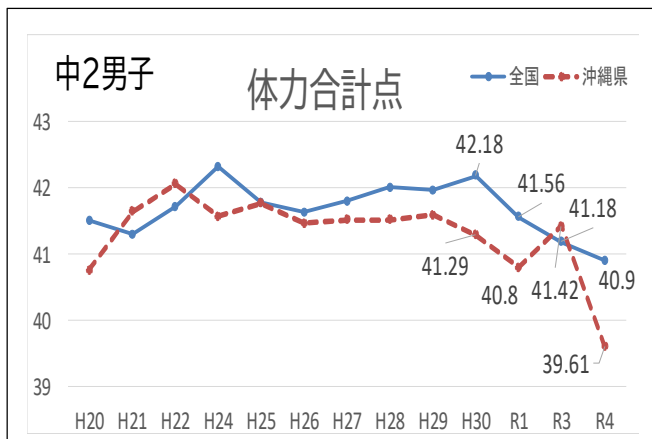
小学校男女とも「握力」「反復横とび」「ソフトボール投げ」が全国平均を上回っており、中でも「ソフトボール投げ」は、調査開始当初から男女ともに全国トップクラスを維持している。一方、「上体起こし」「20mシャトルラン」「50m走」については男女ともに全国平均を大きく下回っている。



4 令和4年度沖縄県の中学2年生の結果

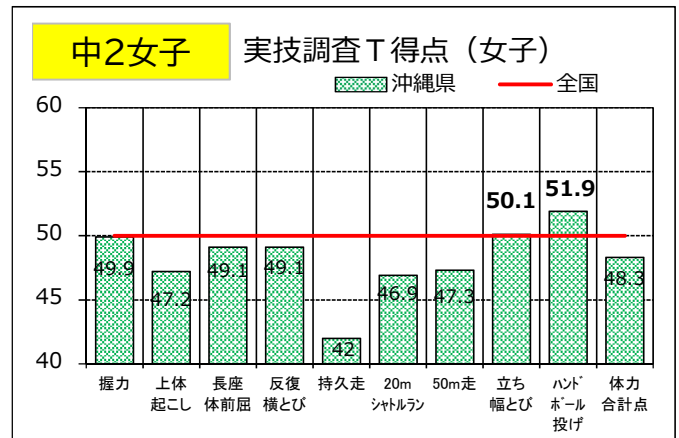
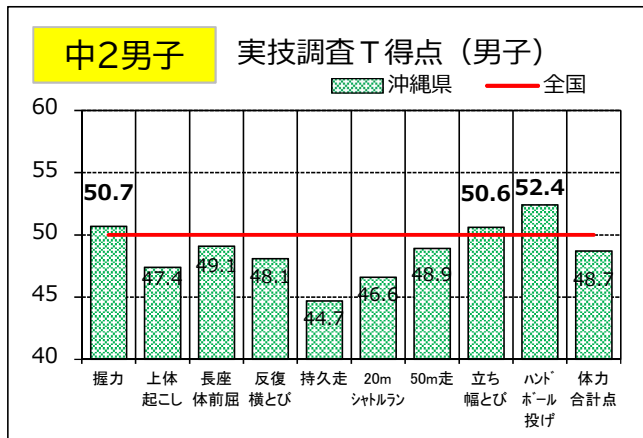
(1) 新体力テストの体力合計点（8種目）

中学2年生の体力合計点（8種目）は、男子については令和3年度に全国平均を上回ったが、令和4年度は全国平均を大幅に下回っている。女子については令和元年度に全国平均との差を縮めたが令和4年度は、大きく下回っている。



(2) 新体力テスト種目別のT得点（全国50点）

男女ともに「立ち幅とび」「ハンドボール投げ」が全国平均を上回っており、男子については、「握力」も上回った。中でも「ハンドボール投げ」は、小学5年生同様、調査開始当初から男女ともに全国トップクラスを維持している。一方、「上体起こし」「持久走」「20mシャトルラン」「50m走」については男女ともに全国平均を大きく下回っている。



## 5 今後の取組

- (1) 沖縄県体力向上推進委員会において、体力テストの結果等を分析し、体力向上に向けた有効な取組について協議した内容を学校現場等へ周知することで、児童生徒の望ましい食習慣、運動習慣の改善に向けた取組の充実を図る。
- (2) 保健体育課主催の各種研修会や義務教育課と合同で行う学校支援訪問、教科支援訪問等を通して、機会あるごとに幼児の運動促進のための取組の必要性を呼びかけるとともに「運動が苦手な子」や「運動に意欲的でない子」が運動に親しみ、主体的に運動に取り組めるよう、体育・保健体育科の授業改善を図る。
- (3) 各教育事務所と連携し、小学校体育主任を対象とした悉皆研修会等を実施することにより、各学校におけるさらなる体育授業の工夫改善や体力向上へ向けた取組等の充実を図る。
- (4) 体育専科配置校の公開授業及び授業研究会による取組事例紹介や近隣校への派遣等を通して児童の体力向上の取組推進と小学校体育科の授業改善を図る。
- (5) 体育の授業以外での運動時間が少ない児童生徒、運動部活動等に参加していない児童生徒を考慮しつつ、学校教育活動全体を通じて体力向上に向けた「一校一運動」を推進する。
- (6) 家庭・地域と連携した運動習慣の日常化の取組を推進するため、夏休みや冬休みに家族で週3回、30分以上の運動の実践を奨励する「家族で挑戦！がんにじゅうアップチャレンジ！！330」運動を展開する。
- (7) 次世代の健康づくり副読本「くわっち～さびら」（食育編）や「ちゃ～がんにじゅう～」（生活習慣編）の学校現場における活用を促進し、児童生徒の望ましい食習慣、運動習慣の改善に向けた取組の充実を図る。